

看護研究バックナンバー(内容紹介)

NOV
DECVol
45
No
07

特集 | 臨床看護師が取り組む研究モデルの探究

■本特集の構成について 坂下玲子

国内の現状と課題

■臨床看護研究に関する文献検討 宇多絵里香

■臨床看護師が取り組む看護研究の実態 坂下玲子, 西平倫子, 西谷美保

■なぜ、病院は看護研究に取り組むのか 宮芝智子

■臨床から発表される論文の検討 北島洋子

海外の状況から

■米国における臨床看護研究の現状—スタッフナースへの研究活動支援プログラムに着目して

岡田彩子

モデルの探究

■Evidence-Based Patient Management, Micro-Evidence, and Micro-Trialing

Ivo Abraham, Karen MacDonald

■翻訳 エビデンスに基づく患者マネジメント、マイクロエビデンスとマイクロトライアリング

Ivo Abraham, Karen MacDonald / 翻訳: 坂下玲子

■研究モデルの提案 坂下玲子

■意義ある臨床看護研究のあり方—まとめにかえて 坂下玲子, 内布敦子, 片田範子

●特別記事

日本の医療分野における質的研究論文の検討(第3報)

データ分析 戈木クレイグヒル滋子, 三戸由恵, 関美佐

●連載

Words, words, words. —学際的なダイアログをめざして⑥ 記述と規範 江藤裕之

看護研究の基礎—意義ある研究のためのヒント・12(最終回) Mixed Methods 研究 坂下玲子

SEP
OCTVol
45
No
06

特集 | ケアリングが築く未来 国際ケアリング学会の成果

■[名誉会長講演] 私たちのヒューマニティの心に触れる 平和へのカリタスの道

Jean Watson / 監訳: 稲岡文昭 編集: 筒井真優美, 江本リナ

■[教育講演] ナラティブを通してケアリングの心を開く 1人の語り手は世界を形成する(ホピ族の言葉)

Christopher Johns / 監訳: 田村由美 編集: 筒井真優美, 江本リナ

■[教育講演] ナイチンゲールの遺産 ケアリングと平和に向けた統合看護・ホリスティック看護の

サイエンスとアート Barbara Dossey / 監訳: 戸村道子 編集: 筒井真優美, 江本リナ

■[会長講演] 看護マネジメントにおけるケアリング 新道幸恵

■[教育講演] 看護教育におけるケアリングと平和 安酸史子

●特別記事

日本の医療分野における質的研究論文の検討(第2報)

研究法の選択とデータ収集 戈木クレイグヒル滋子, 三戸由恵, 関美佐

●研究報告

認知症高齢者の家族介護者に対するソフトマッサー(タクティールケア)のストレス・介護負担の緩和,

健康の回復に関する有効性の検討 鈴木みずえ, 三浦真澄, 鈴木初枝, 木本明恵, 江向洋子, 林辰弥

●連載

Words, words, words. —学際的なダイアログをめざして⑤ 記述と規範 江藤裕之

看護研究の基礎—意義ある研究のためのヒント・11 質的研究—分析の基礎

方法崇拝に陥らないために 田中美恵子, 坂下玲子

JUL
AUGVol
45
No
05

特集 | 北欧ケアとは何か 看護研究への示唆

■北欧ケア研究のために もう1つの現象学のアプローチ 浜渦辰二

■患者に焦点を当てることは生活世界に焦点を当てることである

ケア学というパースペクティブ カーリン・ダールベリ / 監訳: 浜渦辰二 翻訳: 川崎唯史

■北欧ケアの思想的な拠り所 問いとしての「福祉」 竹之内裕文

■ホスピス・緩和ケアにおける生活世界ケア

スウェーデンとスコットランドのホスピス・緩和ケア病棟の視察を通して考えたこと 齊藤美恵

●特別記事

日本の医療分野における質的研究論文の検討(第1報)

論文数の推移と研究法の混同 戈木クレイグヒル滋子, 三戸由恵, 関美佐

●原著論文

小児病棟の組織文化と看護実践 患者が子どもであることによる困難さ 川名るり

●連載

Words, words, words. —学際的なダイアログをめざして④

サイエンスとアート(その2) 江藤裕之

看護研究の基礎—意義ある研究のためのヒント・10 量的研究—分析の基礎(後編) 坂下玲子

